

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	岐 阜 県
-------	-------

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	養老町立 高田中学校			フロンティアチャー	田 中 章 二	
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	6	6	1	18	37
生徒数	170	204	202	6	582	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を身につけ、意欲的に学ぶ生徒の育成
～個に応じた指導の工夫～

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

・全学年・全教科
全教科、全職員で、生徒の確かな学力の育成に取り組むため
・少人数指導、TT
1年生：数学、英語 2年生：数学、社会 3年生：数学

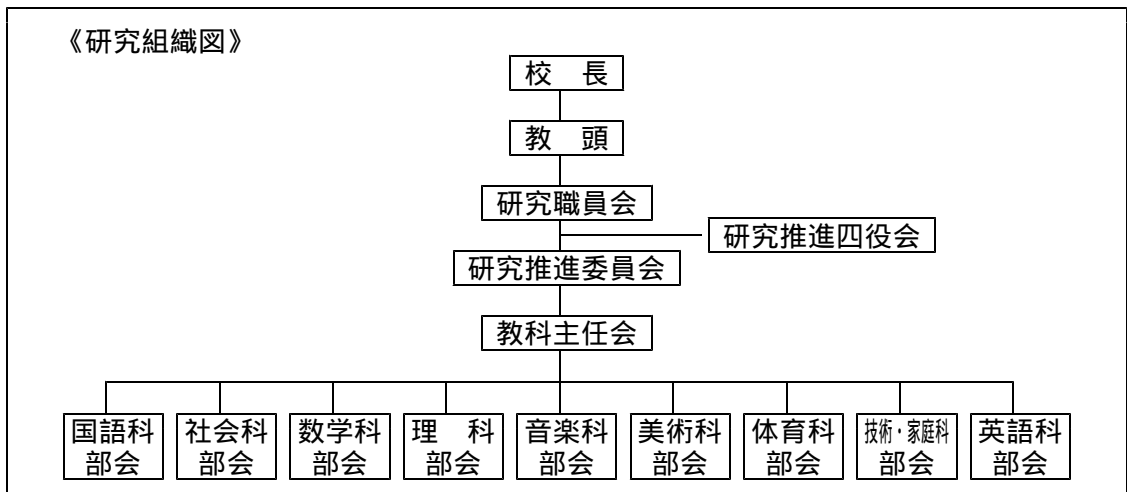
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>研究主題 確かな学力を身につけ、意欲的に学ぶ生徒の育成 ～個に応じた指導の工夫～</p> <p>研究仮説 各単元・題材の基礎・基本を明確にし、生徒の実態を把握し、個に応じた指導方法・学習過程・評価の仕方を工夫した学習活動を進めていけば、確かな学力を身につけ、意欲的に学ぶ生徒が育つ。</p> <p>研究内容与方法</p> <p>(1) 基礎・基本の定着を図る指導計画の作成 評価規準を明確にした単元指導計画の工夫改善 個に応じた指導のための教材の開発</p> <p>(2) きめ細かな指導方法のあり方 学習内容、生徒の実態に応じた学習形態・指導形態 個の実態に応じた指導・援助 個に応じたきめ細かな指導を図り、確かな学力をつけるためには、1時間ごとの指導内容を明確にして徹底を図る必要があると考え、全教科で以下の手順で学習展開を考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>(ア) 本時のねらいを明確にし、重点を置く観点を決める。 (イ) 評価規準を具体化する。 (ウ) 評価規準に照らし合わせて生徒の実態を予想し、本時の特に指導したい姿を明確にする。 (エ) その姿に対する指導・援助の方向を考え、具体的な働きかけや言葉がけを準備する。 (オ) さらに、きめ細かな指導を行うために、少人数指導やTTなどの指導形態の工夫をする。</p> </div> <p>(3) 評価を生かした指導のあり方</p>
--------	--

生徒による自己評価、相互評価
 評価を生かした指導
 生徒による授業評価を生かして授業改善を進めていくことが、確かな学力の向上につながると考えた。そこで、生徒の願いをしっかりと受けて、授業課題を明確にして、授業改善を図っていくために、4月、7月、12月の年3回は、共通して全教科で授業評価を実施する。

平成16年度
 研究主題
 確かな学力を身につけ、意欲的に学ぶ生徒の育成
 ～個に応じた指導の工夫～
 研究仮説
 各単元・題材の基礎・基本を明確にし、生徒の実態を把握し、個に応じた指導方法・学習過程・評価の仕方を工夫した学習活動を進めていけば、確かな学力を身につけ、意欲的に学ぶ生徒が育つ。
 研究の内容・方法
 (1) 基礎・基本の定着を図る指導計画の作成
 評価規準を明確にした単元指導計画の作成
 ・評価規準のさらなる具体化(生徒と共有する評価規準づくり)
 個に応じた指導のための教材の開発
 (2) きめ細かな指導方法のあり方
 学習内容、生徒の実態に応じた学習形態・指導形態
 ・より一層思考を深めるための話し合い活動の場の充実
 個の実態に応じた指導・援助
 (3) 評価を生かした指導のあり方
 生徒による自己評価、相互評価
 評価を生かした指導
 ・授業評価アンケートの評価項目の見直しとその生かし方
 ・生徒の学力の変容を客観的に把握する方法の明確化

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究実践の歩み

本年度は、研究内容の中で、特に「生徒による授業評価を生かした授業改善のあり方」「個に応じたきめ細かな指導のあり方」の2点に重点を置き、研究実践を進めてきた。以下は、その取り組みの結果である。

(1) 生徒による授業評価を生かした授業改善の手順の明確化

生徒による授業評価の集計結果をもとに、気になる傾向を取り上げ、授業改善の手順を明らかにすることができた。下記は、数学科・英語科の実践例である。

【数学科の実践例】

授業評価アンケート

[数学] 科 学習展開「学習内容を振り返ろう」

()月()日 小・大 単元名() 氏名[]

評価項目 ～ 全教科共通 ～ 各教科ごとで	評価				
	よかった	ふつう	よくなかった		
課題の意味を理解できるように工夫してあったか	5	4	3	2	1
じっくり考える時間があったか	5	4	3	2	1
先生の説明で解き方がわかるようになったか	5	4	3	2	1
友だちの考えをいろいろ聞くことができたか	5	4	3	2	1
できた、わかったという満足感をもつことができたか	5	4	3	2	1
挙手・発表しやすい雰囲気であったか	5	4	3	2	1
質問がしやすかったか	5	4	3	2	1
自分の解き方を見てもらえたか	5	4	3	2	1
考えをまとめる時間はあったか	5	4	3	2	1
自分のつまずきがわかり、解決することができたか	5	4	3	2	1
少人数学級らしい授業の工夫があったと思うか	5	4	3	2	1

アンケート結果を生かした授業改善

(ア) 生徒による授業評価結果

数学科 第3学年 評価項目	評価割合 (%)				
	5	4	3	2	1
課題の意味を理解できるように工夫してあったか	50	37	13	0	0
質問しやすかったか	68	13	13	6	0
考えをまとめる時間はあったか	56	25	19	0	0

(イ) 授業評価の考察

必然性のある課題設定、質問ができる、自分の考えを練る学習過程の工夫が求められる。と同時に、個に応じた表現力の育成を目指し、個に応じたきめ細かな指導をより具体化する必要がある。

(ウ) 授業改善の方向

- ・課題づくりの段階では導入で相似な三角形を見つけることを通して、対応する辺や角に目を向ければ相似条件が見つけれそうだという見通しを持たせる。
- ・課題を追究する段階では、基礎クラスでは、相似な条件にあてはまる相似な三角形を記号で見つけさせる問題を、発展クラスでは、対応する辺が重要となる2つの三角形が重なる問題を与え、課題意識をもって筋道をたてて考えていける場を位置づける。
- ・相似になる理由を矢印や文章等で書かせることで、根拠をもって説明できる表現力を育てていく。

【英語科の実践例】

授業評価アンケート (略)

アンケート結果を生かした授業改善

(ア) 生徒による授業評価結果

英語科 第1学年 評価項目	評価割合 (%)				
	5	4	3	2	1
課題の意味を理解できるように工夫してあったか	35	27	36	1	1
じっくり練習する時間はあったか	40	37	21	1	1
活動を通して仲間のよさを学ぶことができたか	40	31	27	1	1

(イ) 授業評価の考察 (略)



(ウ) 授業改善の方向

- ・ 課題づくりの段階では、1度目は悪い例を、2度目はよい例の発表やアドバイスを
見せることで、本時の学習内容に具体的な見通しをもたせる。
- ・ 課題を追究する段階では、ペアやグループになって互いにアドバイスしながら練習
したり、コースに分かれて練習したりして、練習量を確保し、表現力を高めて
いく。
- ・ 仲間のよさを自分の表現に取り入れて、再び練習する場を設定することで、一人
一人の表現力を高めていく。

(2) 生徒の願いを生かした授業改善の向上

確かな学力をめざし、「個に応じた指導・援助」を大切にして授業改善に努めてきた。その過程で実施した「生徒による授業評価」は、教師の授業改善の向上につながった。

【数学科の実践例】

(ア) 授業に対する生徒の願い

4月の自己評価の感想で、「練習問題をやった。でも最後の方があまり分からなかった
ので教えてほしい」、5月上旬に実施した授業評価では、「質問がしにくかった」「
じっくり解き方を考えられるようになりたい」と願っていることがわかった。



(イ) 指導・援助の具体化

そこで、全校共通の評価項目に新たに5項目を加え、生徒の思いをしっかりと把握し、
さらに、評価規準に照らして指導・援助の方向を考え、発表の場を増やしたり、
質問しやすい机列にしたり、反復練習を増やしたりする工夫をした。



(ウ) 授業改善の成果

その結果の変容を3年の1、2学期の中間テストの結果で考察した。「数学的な
考え方」を評価する問題の正解率は、5月、10月の段階で比較したところ、少人数
指導の基礎コースでは20%から25%へ、発展コースでは62%から70%とな
った。

授業評価を通して、一人一人の願いを大切にして行った着実な授業改善が、少しづ
つではあるが、数学的な思考力を育成することにつながっていくように感じた。

2. 研究の成果

- ・ ねらいの明確化や評価規準の具体化に努め、つまずきだけではなく習熟度の高い生
徒に対しても手だてを用意し、個に応じた指導・援助を充実させることができた。
(ヒントコーナー、学習プリント、補助資料、課題意識を高める具体物の提示等)
- ・ 意欲的に学ぶ生徒の育成を願い、習熟度に応じたTTや課題に応じた少人数指導等
指導形態を工夫改善したことで、より個に応じた指導・援助が可能になった。
- ・ 授業評価アンケート等で生徒の声を聞き、授業改善に生かすことで、生徒の願いや
思いを大切にしたい授業づくりに努めることができた。
- ・ 全教科で、確かな学力の向上をめざして実践に取り組むことができ、生徒の学ぶ姿
勢が向上した。

3. 今後の課題

- ・ 授業に対する生徒の思いを把握し、授業改善に生かすためにも、授業評価項目を見
直し、改善していく。
- ・ 視点を変えたり、深めたりする話し合いの場を充実させる手だてを工夫していく。
- ・ 生徒の学力やその変容を客観的に把握していく方法を明らかにしていく。

学力把握のための学校としての取組

学力診断テスト	国語、社会、数学、理科、英語（2、3年生）
実施時期	4月当初（全学年）
目的	学年が進むにつれて、それぞれの教科で学力がどのようにつたのか診断し、個々の指導に生かす。
中間テスト	国語、社会、数学、理科、英語
実施時期	5月、10月（全学年）
目的	観点別評価のデータを集積・分析して、個々の指導に生かす。
期末テスト	国語、社会、数学、理科、英語、保健体育、技術・家庭
実施時期	7月、11月（全学年）、1月（3年生）、2月（1、2年生）
目的	観点別評価のデータを集積・分析して、個々の指導に生かす。
実力テスト	国語、社会、数学、理科、英語
実施時期	1月（1、2年生）
目的	学習の到達状況を把握し、データを集積・分析して、個々の指導に生かすとともに、授業改善に活用する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

「学力向上フロンティア事業」西濃地区協議会・学力フロンティアスクール公表会の開催	
月日	11月25日（火）
会場	高田中学校（本校）
対象	西濃地区の全中学校の代表者、各小中学校の参加希望者、教育委員会の参加希望者、フロンティアティーチャー等。
目的	実践研究の成果や授業改善の成果を地区内の小中学校が共有し、基礎的・基本的な内容の定着と個に応じたきめ細かな指導・援助の充実を図る。
	・研究紀要、リーフレットの作成
	・学習指導案集の作成
	・ホームページの作成
フロンティアティーチャーの活動	
10月24日（金）	美濃地区協議会・公表会（八幡町立八幡中学校）に参加
11月10日（月）	可茂地区協議会・公表会（組合立共和中学校）に参加
11月27日（木）	地区協議会（組合立東安中学校）に参加、分科会で実践交流
1月28日（水）	地区協議会（池田町立温知小学校）に参加
2月2日（月）	地区協議会（海津町立高須小学校）に参加

【新規校・継続校】	<input checked="" type="checkbox"/> 15年度からの新規校	<input type="checkbox"/> 14年度からの継続校		
【学校規模】	<input type="checkbox"/> 3学級以下	<input type="checkbox"/> 4～6学級		
	<input type="checkbox"/> 7～9学級	<input type="checkbox"/> 10～12学級		
	<input type="checkbox"/> 13～15学級	<input checked="" type="checkbox"/> 16学級以上		
【指導体制】	<input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導	<input checked="" type="checkbox"/> T・Tによる指導		
	<input type="checkbox"/> その他			
【研究教科】	<input checked="" type="checkbox"/> 国語	<input checked="" type="checkbox"/> 社会	<input checked="" type="checkbox"/> 数学	<input checked="" type="checkbox"/> 理科
	<input checked="" type="checkbox"/> 外国語	<input checked="" type="checkbox"/> 音楽	<input checked="" type="checkbox"/> 美術	<input checked="" type="checkbox"/> 技術・家庭
	<input checked="" type="checkbox"/> 保健体育	<input type="checkbox"/> その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	<input checked="" type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無		